

平成 18 年度当初予算案 特徴的な事業の紹介

子育て支援対策を重点課題に

少子化の進行は文京区でも深刻な状況

平成 16 年の全国の合計特殊出生率 1.29

東京都全体 1.01

文京区 0.81

文京区では、平成 18 年度に子育て支援の専管組織として「男女協働子育て支援部」を新たに設置し、地域と一体になって子育て支援に取り組む。

地域と協働して子育て支援

～ 地元企業・商店街も子育て応援にひと役～

特徴的な事業

- (1) 子育ての不安に区民サポーターが支援
子育てサポーター事業 (主要事業等抜粋 P. 4)

予算額 3,359 千円

事業概要

子育て経験のある区民等が、保育実習、児童心理等のセミナーを受講し、子育て家庭に保育サポートを提供
子育て不安の相談にも対応し、不安の早期解消を図る。

問い合わせ先	企画政策部企画課	5803-1126
	福祉部児童課	5803-1282

- (2) 子育て家庭への経済的支援として 1 億円
(仮称) 文の京子育て支援券交付事業 (主要事業等抜粋 P. 3)

予算額 106,512 千円

事業概要

子育て家庭に区内商店で購入できる「(仮称)文の京子育て支援券」(幼児・児童1人当たり5,000円分)を交付し、区民の子育てを経済面から応援

その他の経済的支援として「商店街子育てポイントカード事業」(予算:6,779千円:主要事業等抜粋P.1)を実施

問い合わせ先 区民部経済課 5803-1173

(3) 中小企業の子育て支援環境整備を促進

中小企業向け子育て支援事業補助(主要事業等抜粋No.2)

予算額 1,500千円

事業概要

次世代育成一般事業主行動計画を策定した中小企業事業主に対し、その取り組みに要した費用を補助(1事業所30万円以内)し、地元中小企業で働く子育て世帯が働きながら子育てしやすい環境の整備を促進。

事業補助に加え、企業内の子育て環境整備促進のため、中小企業等資金融資あっせん事業に低利の「子育て支援資金」を新設する。

問い合わせ先 区民部経済課 5803-1173

子育て支援に関連する主な事業 [()内は主要事業等抜粋ページ]

育児と仕事の両立支援

中小企業向け子育て支援事業(P.2) 一時保育事業(P.5)

放課後オアシス運営事業(P.9) 幼保一元化施設「柳町

子どもの森」運営(P.11)等

育児の心理的不安の解消

子育てサポーター事業(P.4) 子育てガイド作成(P.6)等

子育て世帯への経済的支援

商店街子育てポイントカード事業(P.1) (仮称)文の
京子育て支援券交付(P.3)等

生涯学習都市・文京区を目指しアカデミー構想が始動

文京区には16の大学が集積し、史跡・文化財等も豊富にある。これら教育・文化資源を最大限に活かす「文京アカデミー構想」を平成18年度からスタートさせ、「生涯学習都市・文京」の実現を目指す。
アカデミー構想を推進していくため、生涯学習・文化・スポーツ事業を教育委員会から区長部局に移管

文京区を「まるごとキャンパス」に

「文京アカデミー構想」

最先端の生涯学習と新たな文化・芸術を協働・協治により幅広く展開する「生涯学習都市・文京」を築く。

高度・専門的な講座や多彩な学習機会の提供
大学施設や民間文化施設の利用拡大
学習成果の活用



先進的施策を展開し、
「区内まるごとキャンパス」
化を実現

特徴的な事業

文京区独自の資格制度を創設 ～学習成果を活かす仕組みを構築～
生涯学習司・インタープリターの資格認定
(主要事業等抜粋 P.14 : 「人材育成講座」)

予算額 1,523 千円

事業概要

(仮称)文の京 生涯学習司

生涯学習リーダーとして地域貢献できる人

生涯学習の基礎・概論、地域支援・振興等の講座を受講

(仮称)文の京 地域文化インタープリター

地域文化を紹介する等文化事業に貢献できる人

博物館概論、展示概論等の講座を受講

資格認定 講座への出席状況、レポート等の提出により、文京区が修了の認定を行う。

地域活動や生涯学習講座の企画運営などへの参画(生涯学習司)、文化事業の展示内容の説明や文化祭等の展示会での受付案内(インタープリター)など、資格を活かした人材活用の機会・場を区内大学と連携して整備

問い合わせ先 企画政策部副参事 5803-1330
生涯学習部文化振興課 5803-1126

参考資料添付 資料1

都心に3万㎡の都市計画公園を整備

国家公務員共済組合連合会及び財務省が所有する目白運動場跡地及び隣接する国有地を区が買収し、運動機能と防災機能を備えた都市計画公園として整備する。

区所有の柏総合運動場（柏市東柏 1-22-34）を廃止し、運動場の機能を移転することで区民の運動場利用の利便性を向上

スポーツ公園 震災時には仮設住宅建設

都市計画公園事業 （主要事業等抜粋 P.21）

予算額 18年度当初予算 12,232,622 千円
（参考：17年度補正予算 1,810,000 千円）

事業概要

都心に新しい3万㎡の都市計画公園が誕生
野球やテニスのできる運動公園として活用
震災時には、広域避難場所になるほか、仮設住宅の建設用地として活用

計画面積

目白運動場跡地・隣接国有地（文京区目白台1丁目）約30,000㎡

事業期間

平成17年度・平成18年度 用地取得及び設計
20年度までに 公園整備

財源 国や都の補助金、ミニ市場公募債、基金の活用や柏総合運動場売却収入等により対応

問い合わせ先 企画政策部企画課 5803-1126
土木部みどり公園課 5803-1255

参考資料添付 イメージ図

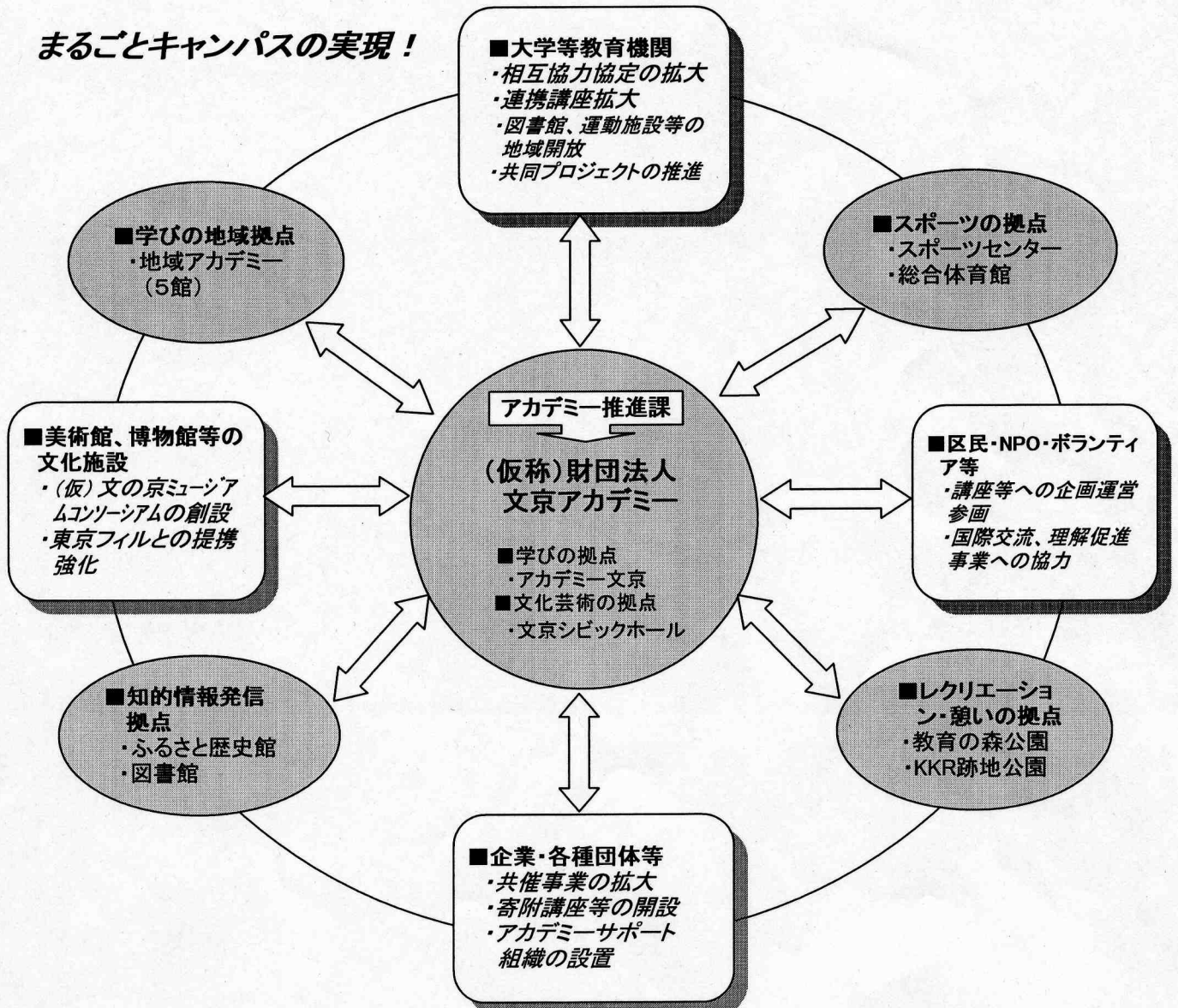
文京アカデミー構想の概要

1. アカデミー構想とは

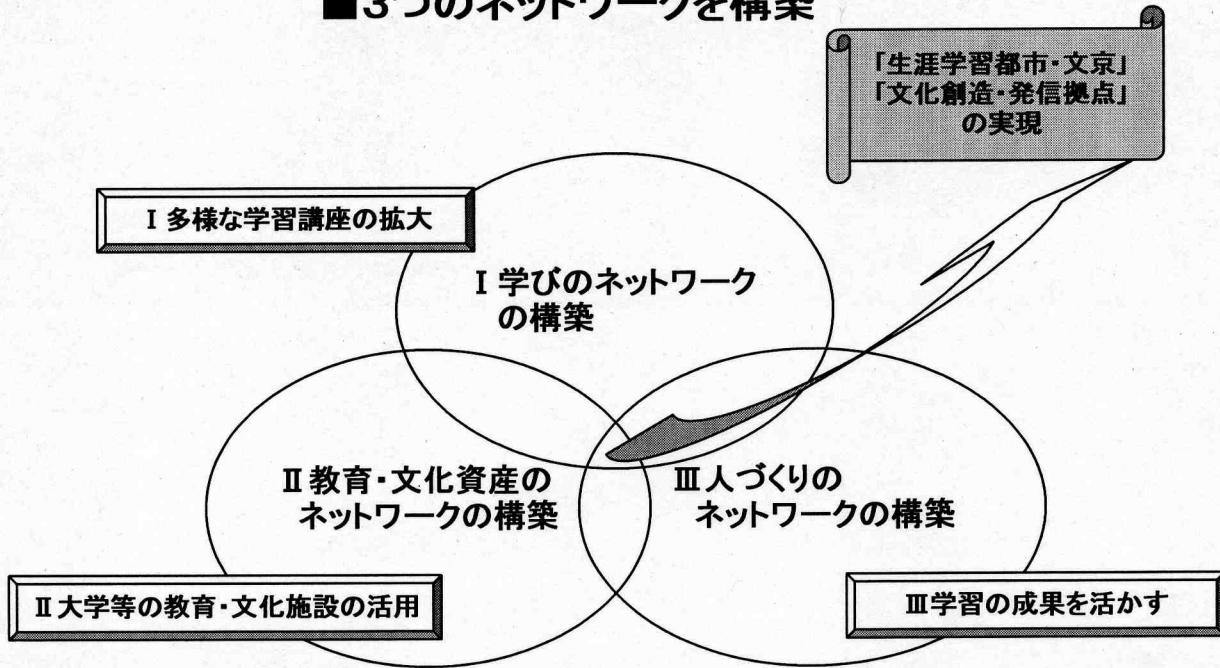
本構想は、生涯学習・文化・スポーツ施策の様々な課題について、全庁的な視点からの検討を行い、効率的で柔軟な対応を行うための体制を構築することで、本区の地域資産である大学等の教育機関、文化施設等との連携により「区内まるごとキャンパス」化を実現し、最先端の生涯学習と新たな文化・芸術を協働・協治により、幅広く展開する「生涯学習都市・文京」を築くものです。

このため、本年4月からは教育委員会生涯学習部の所管事業（一部、文化財保護、PTA支援等を除く）や、国際交流、観光振興施策を区長部局に新設するアカデミー推進課に集約するとともに、現行の（財）文京区地域・文化振興公社を名称変更も含め、大幅に改革し、多くの生涯学習・文化・スポーツ施設の指定管理者とすることを予定しています。

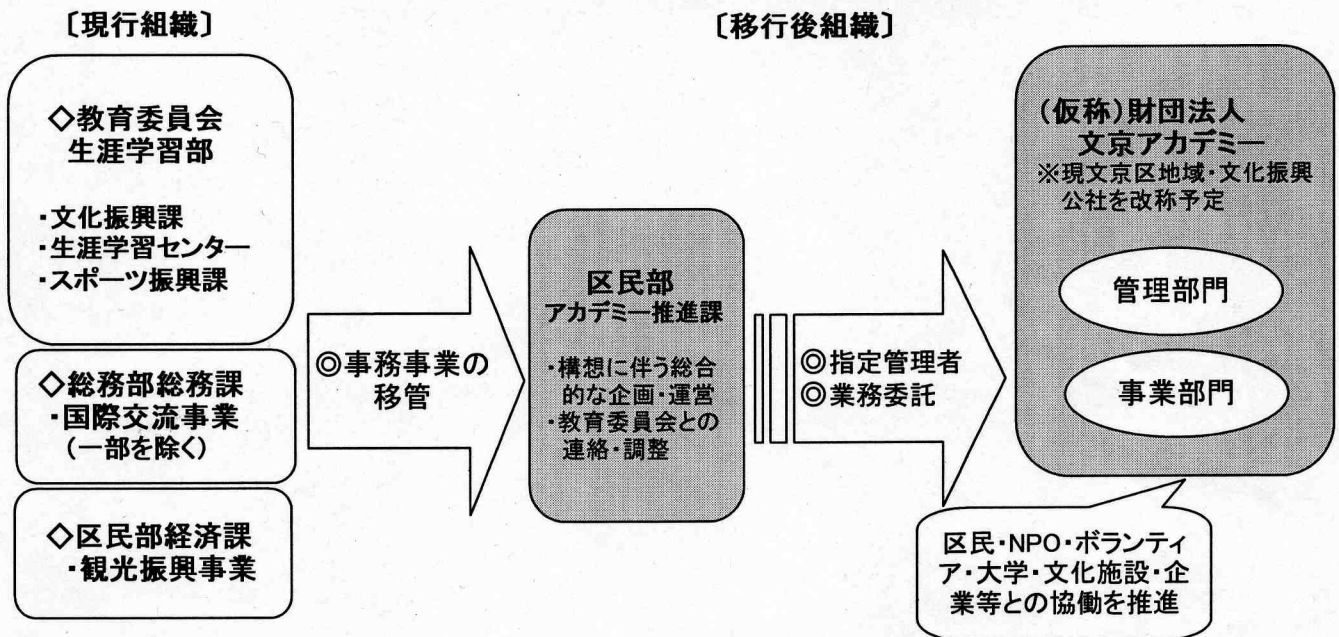
まるごとキャンパスの実現！



■3つのネットワークを構築



■文京アカデミー構想に伴う組織の再構築



■アカデミー構想に関連する主な事業

- カイザースラウテルンへの少年サッカーチーム派遣事業
姉妹都市であり、ワールドカップの開催地である、カイザースラウテルン市に少年サッカーチームを派遣し親善を図る。
- 「国家公務員共済組合(KKR)運動場」跡地に運動公園を整備
現在の柏運動場の機能を目白台のKKR跡地に整備する。(野球場、テニスコート等)
- 東京大学との共同プロジェクトを推進
東大に隣接する旧四中跡地に「(仮称)学びの環プラザ」建設しようとするプロジェクトの本格的な検討に着手。
- 「文化発信プロジェクト」の充実
昨年実施した、「英国科学実験講座 クリスマス・レクチャー」今後、毎年誘致するなど事業の充実を図る。
- 東京フィルハーモニーとの連携強化
文京シビックホールと提携している、東フィルとの事業をさらに強化し、文化・芸術の新たな発信拠点とする。

(仮称) 目白台公園イメージ図

